

アーカイブ Data Report NO. 50

(2020年9月29日)

〒500-8813 岐阜県岐阜市明德町 10 番地 杉山ビル 5F
E-mail: shikaku@npo-nak.com URL: https://npo-nak.com

デジタルアーカイブのカリキュラムを考える（2） ～大学でのデジタルアーカイブ教育～

デジタルアーカイブ教育研究会

1. 初期のカリキュラム

デジタルアーカイブの初期のカリキュラムの多くは、ロードマップ方式（デジタルアーカイブ推進協議会）のように資料の収集、記録、デジタル化、保管、流通、利活用の流れに対応し構成されている。デジタル・アーキビスト資格委員会（事務局 NPO 法人地域資料情報化コンソーシアム、現在の NPO 法人日本アーカイブ協会）では、表のようにデジタル・アーキビストに求められる能力としていた。

（水嶋英治，“デジタル・アーキビストの人材養成”. デジタルアーカイブ白書 2005. デジタルアーカイブ推進協議会. 2005,p.123 より）

また、岐阜女子大学は文部科学省の大学教育支援プログラム（GP）「デジタル・アーキビストの養成」に選定され、専門的な技能を持つ総合的な人材の育成を特色として、デジタル・アーキビスト養成のカリキュラムを提案した。（「デジタル・アーキビスト資格認定機構の初期資料（2006年）」岐阜女子大学文化情報研究センター……岐阜女子大学や日本アーカイブ協会の HP にあり。）

そこでは、デジタル・アーキビストに求められる要件として、図に示す3領域を設定した。これを基礎にして、コア・カリキュラムと関連科目で合計32単位のデジタルアーカイブ養成カリキュラムを構成した。

-2005年当時- デジタルアーカイブ白書より

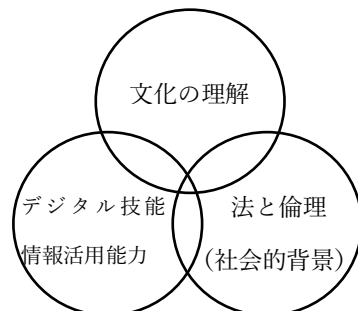
デジタル・アーキビストに求められる能力

1	文化資料・活動と開発利用の目的設定	文化に関する理解、各文化情報資料等の価値判断能力(デジタル・アーカイブ化の必要性が評価できる力)
2	文化資料・活動の調査	現物を調査し、文化的な評価を併せその著作権・プライバシーなど知的財産についてのDA化に対する解決策を持つ能力
3	記録	文化資料・文化活動等の各種の記録(デジタル・ハイビジョン、360°撮影、フィルム、デジタルカメラ撮影、スキャナー、音声、収音など)とその編集・加工する能力
4	記録資料の情報化	記録した資料をデジタル化して、データベースの各記録項目に情報を正しく記載する能力(説明、情報のカテゴリー化、キーワード、著作権、知的財産などを正しく記入する能力)
5	データベース	データベースの記録項目の構成・構築、カテゴリー、索引語(シソーラス)の整備等ができる能力
6	情報検索・流通と作品等の制作	映像・音楽(音声)・文字(古文書も含め)・電子音その他デジタル・アーカイブとして記録されている情報の検索(各種機能に対し)、および流通ができる能力 また必要な情報を検索し、新しい文化創造活動の支援ができる能力
7	プレゼンテーション	人々の要望に応じた、各種の文化活動・資料の作成およびプレゼンテーションができる能力
8	情報の利用処理	各分野での新しいデジタル・アーカイブの利用に対応し、その活用を支援する能力

出典：デジタル・アーキビスト資格委員会
(現在の NPO 法人日本アーカイブ協会)

2. デジタルアーカイブの発展にともなう改定の必要性

しかし、その後、収集、保管、流通、利活用、権利処理等のデジタルアーカイブの発展に対し、新しい項目の追加程度の変更で終わっていた。このように、現在の発展に対応したカリキュラム構成の大きな改訂が必要となってきた。また、社会的背景も含め、他からも改訂の指摘がされている。

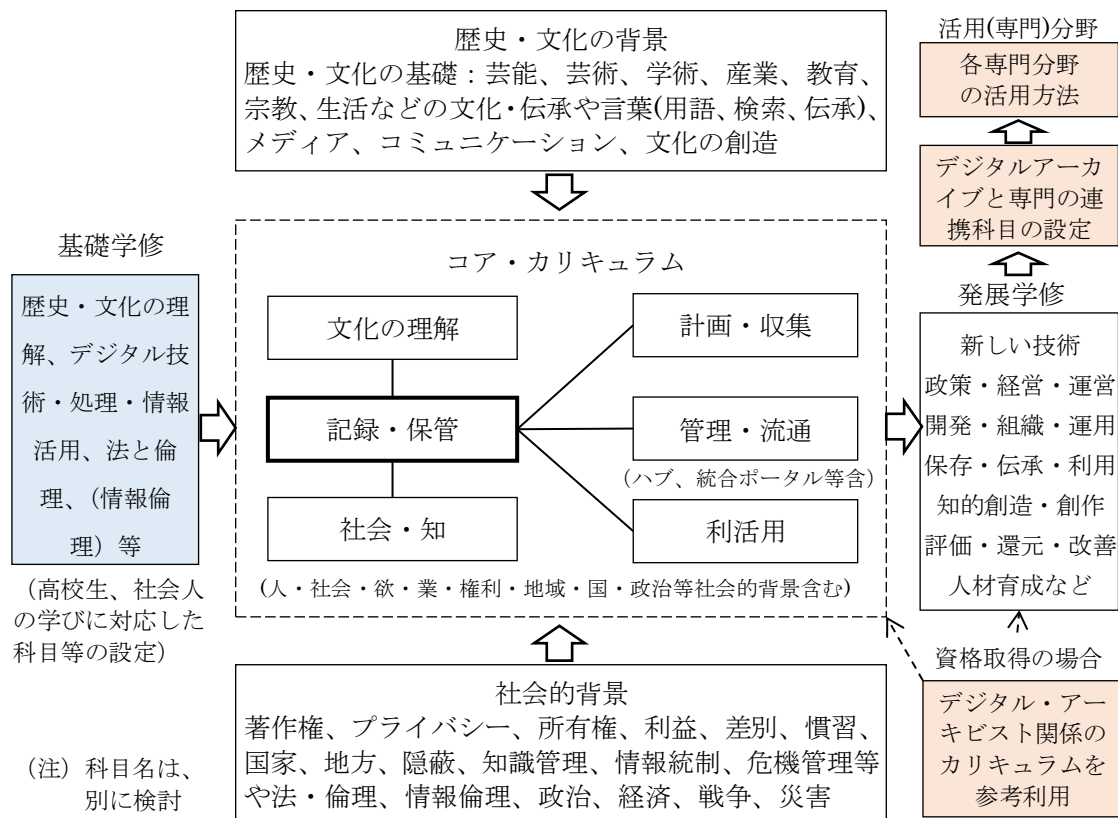


そこで、ぜひ、関係者の協力を得て、まず、コア科目（分野）を設定し、次に学習者の状況、各専門関連分野、デジタルアーカイブの発展等を配慮し関連科目を設定する。

3. デジタルアーカイブ関係科目のカリキュラムの構成について（沖縄・岐阜）

初期のカリキュラムに対し、沖縄、岐阜では次のような大学教育のコア・カリキュラムの試案を検討した。（ぜひ、各方面から意見を出していただき、カリキュラムを構成したい）

デジタルアーカイブのコア・カリキュラムと関連分野の試案（2020.9、G）



基礎学修とコア・カリキュラムの科目について学習内容の構造化とその系列化を再検討し、

- ①教育目標の改訂タキソノミーと学習内容のアセスメントと達成目標の設定
- ②テキスト、e-learning等の作成および関連資料、教材、学習材等のデジタルアーカイブ化
- ③達成目標に対応した評価問題の作成等をする。

資格取得の場合は、デジタル・アーキビスト資格認定機構で作成されたカリキュラム(認定評価含む)提供資料を使う。

教育のコア・カリキュラムの基礎として、高校生、社会人の文化、情報活用能力等の学びの状況を配慮し、基礎科目や導入（入門）テキストを作成する。

また、著作権者、プライバシー等権利の新しい課題、データ通信の高速化、記録容量の増による管理、流通、保管システムの整備、新しい収集記録方法、政策・経営・運営・開発方法・組織、運営、さらに、知的処理、知的創造と新しい文化の創作、さらに世界各国による情報統制、知識管理等に対応した科目の設定を検討する。

(お願い) コア・カリキュラムの科目名等、案があればぜひ、お知らせください。(また、内容校正もよろしく)